

オリンピック後におけるシンクロナイズドスイミング日本代表の引退に対する対策 How to deal with retirements of synchronized swimming representative from Japan after The Olympics

1K09B038-1

大原奈津希

指導教員 主査 中村好男 教授

副査 奥野景介 教授

【緒言】 シンクロナイズドスイミングにおける日本の世界的順位は非常に高いものであったが、近年における相次ぐ現役選手の引退やコーチの総入れ替えなどが原因となり、世界選手権においてもオリンピックにおいても、年々その順位を下落させつつある。また近年、オリンピックを皮切りに、シンクロ界では、第一線で競技生活や競技自体を辞めてしまう選手が大変多くなっている。これは今後の日本におけるシンクロナイズドスイミング界の発展を大きく阻害する要因だと言える。現在、シンクロナイズドスイミングにおける日本代表の練習期間中の実態調査に関する研究報告は、ほとんどなされていない。そこで、第一線で活躍する選手が安心して競技に取り組むことが出来るように、競技者の視点からシンクロナイズドスイミング界の実態を調査し、それらの問題点を把握し、改善策を考える。

【研究Ⅰ】 ロンドンオリンピック シンクロ日本代表のオリンピックに向けての練習環境
(目的と方法) 多くのシンクロ日本代表がオリンピックを境目に引退している原因は日本代表の練習環境、とりわけオリンピックイヤーの練習環境ではないかと考えた。そこで、ロンドンオリンピックにおける日本代表の練習環境に対する10人の選手の見解を、オリンピック前、オリンピック後に区分して質問紙で調査し、多くの選手の引退原因を明らかにした。
(結果および考察) 現役引退する選手の減少状況を打開すべく、練習環境に着目して調査を行い、JISSを自由に使うことが出来るというメリットが逆に過度なトレーニングやプレゼンテーション力の低下を生み、日本代表にとってデメリットとなりつつあることが明らかとなった。また、指導者の総入れ替えも選手の心理面に大きく影響していることも示された。シンクロ日本代表の練習環境をまず改善する必要があると考えられる。JISSでの長期間に渡る合宿の中で JISS の優れた環境を上手く活用できていない。

【研究Ⅱ】 ロンドンオリンピック シンクロ日本代表のオリンピックイヤーにおける私生活

(目的と方法) 多くのシンクロ日本代表がオリンピックを境目に引退している原因は日本代表の私生活における充実感の欠如ではないかと考えた。そこで、ロンドンオリンピックにおける日本代表の私生活を、オリンピック前、オリンピック後に区分して質問紙で調査し、多くの選手の引退原因を明らかにした。

(結果および考察) 日本代表選手の私生活について調査を行い、代表選手が一年を通して練習と私生活の切り替えが出来ていないということ、代表の大部分を占めている学生が学校にほとんど通えていないということ、就職活動が全く出来なかったことで進路が未定のままであることが明らかになった。学業と競技の両立を図ることが、選手の将来を決めると考えられる。

【結論】 研究Ⅰ、研究Ⅱの結果を踏まえると、オリンピックを最後に引退する選手を減少させるためには、JISSの利用方法の効率化を図ること、表現力の向上に繋がるように今まで以上に芸術に触れることの出来る時間を作ること、大学卒業後の進路を明確にすること等が重要であると示された。

【今後の課題】 課題は、一つ目に JISS の練習環境、二つ目に代表選手の育成プログラムである。閉鎖的な選手の育成環境が、昔からシンクロ界に根付いているので、改善すべき点はアンケート結果が示しているように、現在の日本代表選手の多くがシンクロ抜きでは生活を充実させることができない状況である。三つ目に、コーチと選手の信頼関係である。今回のロンドンオリンピックでは、コーチ、選手ともに前大会とは異なるメンバーであったこともあり、今までにはないほど信頼関係は薄いものであった。コーチ側が一体化しチームの方向性を定め、選手とそれを共有する必要がある。